

第5学年2組 音楽科学習指導案

平成20年12月3日（水）第3校時

授業者 教諭

場 所 第2音楽室

1 題材名 重なり合う音の美しさを味わおう

教材 「静かにねむれ」「それは地球」「威風堂々 第1番」

2 題材の目標

- ・声や音が重なり合う響きの美しさを求めて、表現の仕方を工夫しようとしている。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・声や音が重なり合う響きを感じ取って、歌い方や楽器の演奏の仕方を工夫している。
(音楽的な感受や表現の工夫)
- ・響きのある声で合唱したり、響きの変化を感じ取って演奏したりすることができる。
(表現の技能)
- ・楽器の音が重なり合う美しい響きを味わいながら聴くことができる。
(鑑賞の能力)

3 題材について

本題材では、歌声や楽器の音を重ねることによって生まれる響きを、初めて「和音」という概念でとらえる学習を行う。まず、「静かにねむれ」では、楽器による和音の響きや変化を感じ取る学習を行う。その際、和音に対する関心を深めるとともに、旋律と和音の関わりにも気付かせる。本時の教材「それは地球」では、歌声によって和音の響きに移り変わっていく感じを、三部合唱で味わう活動を進める。さらに、鑑賞曲「威風堂々 第1番」では、オーケストラの様々な楽器の組み合わせによる音色や響きの変化を味わって聴いたり、音色を工夫して合奏を楽しんだりする。

これらの活動を通して、声や音の重なり合う美しさを十分味わわせ、和音に関する基礎的な知識を定着させるとともに、和音の響きや変化を感じ取りながら表現できる力を育てていきたい。

4 児童について

落ち着いた集中力のある授業態度が見られ、きれいな声を意識して歌う子が多い。5年生の一学期には、二部合唱曲「いつでもあの海は」で、2つのふしが、違ったリズムと同じリズムで重なることやその響きを味わう学習を行った。その際、違ったリズムでふしを重ねることはできたが、同じリズムでふしを重ねる段階では、相手の旋律につられてしまい、互いの声を聞き合いながらふしを重ねることが難しい状態であった。今回は、2つのふしに更にもうひとつふしが加わり、初めて三声を重ねる活動に取り組む。そのため、三声を確かな音程で美しく重ねて響かせることは、一学期の学習以上に難しいと思われる。さらに、声を重ねる活動は、繰り返しの練習が多く単調になり、意欲が低下しがちである。児童が学習意欲を持続させながら、声が重なり合う響きや変化を味わうことができるよう指導・支援していきたい。

5 指導について

本時では、「それは地球」の後半部分で、三部合唱の響きやその変化を感じ取る活動を行う。まず、掲示用楽譜で、三声の重なりを視覚的に確かめる。それぞれの旋律の音程が不確かな場合は、階名唱や楽器での補助、手で音の高低を示すなどにより、正しい音程をつかむことができるようにする。また、歌唱隊形の工夫や聞く活動を重視することにより、互いの声や全体の響きを捉えやすいようにする。さらに、やわらかな歌声を意識したり、主旋律を中心としたパートのバランスを考えさせたりしながら、美しい響きを味わわせたい。以上のような手立てにより、今年度、個人の研究テーマ「学びの楽しさを追求する音楽科の授業づくり」で目指す、仲間と共に声を合わせて表現することを楽しむ児童の姿が見られることを期待している。

6 指導計画（10時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	感	表	鑑	評価規準
1	曲想を感じ取って歌う。	曲想を感じ取って、なめらかな歌い方を工夫することができる。		○	◎		(表現) 曲想を感じ取って、正しいリズムや音程で歌うことができる。
2	和音伴奏に親しみ、音の重なりを感じ取る。	和音の響きを感じ取りながら、演奏することができる。	○	◎			(感受・工夫) 和音の響きやその変化を感じ取りながら演奏を工夫している。

3	曲想の違いに気付いて、歌い方を工夫する。	曲想の違いを感じ取って、表現を工夫することができる。		◎	○	(感受・工夫) 前半と後半の二つの旋律の特徴を感じ取って、表現を工夫している。	
4	三つの旋律の特徴を感じ取って歌う。	各パートの旋律の違いに関心をもって歌おうとしている。	◎		○	(関心・意欲・態度) 各パートの異なる旋律に関心をもって歌っている。	
5 6 (本時)	響きを感じ取りながら、後半を三部合唱する。	声の重なり合う響きを感じ取って、三部合唱をすることができる。	○	○	◎	(表現) 声の響き合いを感じ取りながら、三部合唱をすることができる。	
7	オーケストラの響きや曲想の変化を味わう。	曲想の変化や音が重なり合う響きを味わって聴くことができる。		○		◎	(鑑賞) 曲想の変化を感じ取り、楽器の音が重なり合う響きを味わって聴くことができる。
8	曲想を生かした演奏の仕方を工夫して、主旋律を演奏する。	曲想を生かして、主旋律をなめらかに演奏することができる。		○	◎	(表現) 主旋律の特徴を感じ取って、リコーダーや鍵盤ハーモニカで演奏することができる。	
9	パートに合った楽器を選んで演奏する。	パートの特徴に合った楽器を選んで演奏することができる。	○	◎		(感受・工夫) 拍の流れに乗って、パートの特徴や役割を感じ取って演奏することができる。	
10	曲想を生かして合奏を工夫する。	曲想を生かしながら演奏することができる。		○	◎	(表現) 楽器の特徴を生かしたり音量のバランスに気を付けたりしながら、表情豊かに演奏することができる。	

7 本時の目標 声の重なり合う響きを感じ取りながら、三部合唱をすることができる。

8 準備物 掲示用楽譜

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援 (・) と評価 (☆)
○「それは地球」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> 前半と後半の曲想の違いや声の重なりを意識しながら、歌うようにさせる。 掲示用の楽譜を提示することにより、視覚的に音の高低や重なり方を確かめて、正しく歌唱できるようにする。 音程を確かめたり、音の重なりを聴いたりしやすいように、歌唱隊形を工夫する。 重なった音を長く伸ばすことにより、音程を確かめたり、和音の響きや変化を味わわせたりする。 音程が取りにくい場合は、鍵盤ハーモニカでメロディーを弾いて補助したり、手で音の高低を示したりしながら歌わせる。 やわらかい発声や主旋律を生かすことに気を付けたり、他のパートや全体の歌声を意識させたりすることにより、声の重なり合いを感じ取れるようにする。 ☆声の重なり合う響きに関心をもって、意欲的に歌っているか。(活動の様子を観察…関心・意欲・態度) ☆声の重なり合う響きを感じ取りながら、歌うことができているか。(演奏の聴取…表現の技能)
和音のひびきを聞きながら 三部合唱をしよう	
○和音を見付ける。	
○後半部分を合わせる。	
○3つの音がきれいに重なるためには、どんなことに気を付けたらよいか考える。 「正しい音程」 「やわらかい声」 「主旋律を生かす 声量のバランス」 「他のパートや全体の歌声を聞く」	
○考えた点に気を付けながら合唱して、三声の響きを感じ取る。	
○次時の学習について知る。	

10 授業の観点

三声を重ねる場面での教師の支援は、児童の学習意欲の持続や音が重なり合う響きを感じ取る活動に効果的であったか。